

## 第 10 回 江戸川大学簿記コンクール【 問題 】

### 第 1 問 (20 点)

下記の取引について仕訳しなさい。ただし勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当 座 預 金	受 取 手 形	売 掛 金
未 収	金	消 耗 品	備 品	土 地
支 払 手 形	買 掛 金	備品減価償却累計額	未 払 金	当 座 借 越
割 引 手 形	益	固定資産売却益	売 上	受 取 手 数 料
雑	益	租 税 公 課	仕 入	支 払 手 数 料
通 信 費	減 価 償 却 費	手 形 売 却 損	消 耗 品 費	整 地 費 用
減 価 償 却 費			固 定 資 産 売 却 損	損 益

1. 出店用の土地 165 m<sup>2</sup>を 1 m<sup>2</sup>あたり 20,000 円で購入し、購入手数料 100,000 円を含む全額を後日支払うこととした。また、この土地の整地費用 50,000 円を現金で支払った。
2. 沖縄商店から商品 500,000 円を仕入れ、この代金のうち半額は同店振出し、石垣商店受取の為替手形を呈示されたので、その支払いを引き受け、残額は沖縄商店宛の約束手形を振り出して支払った。
3. 領収証の発行や約束手形の振出しに用いる収入印紙 10,000 円と郵便切手 5,500 円をともに宮古島郵便局で購入し、代金は現金で支払った。
4. 消耗品 8,000 円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。ただし、当店の当座預金の残高は 5,000 円であるが、借入限度額 100,000 円の当座借越契約を結んでいる。また、当店は、消耗品の処理について、購入時にいったん費用として計上し、決算時に未使用分を資産に振り替える方法を採用している。
5. 平成 24 年 9 月 1 日に取得した業務用パソコン（取得原価 150,000 円、残存価額ゼロ、耐用年数 5 年、減価償却費の計算は定額法、間接法で記帳）を平成 27 年 1 月 31 日に 20,000 円で売却し、売却代金は現金で受け取った。なお、当店の決算日は 12 月 31 日であり、減価償却費は月割計算によるものとする。

**第2問 (10点)**

次の文章の ( ① ) ~ ( ⑤ ) に当てはまる最も適切と思われる語句を下記の語群から選び、答案用紙に記入しなさい。

1. 店主が支払うべき所得税や住民税といった税金を納付した時は、( ① ) 勘定の借方に記入する。
2. 仕入先元帳は、仕入先ごとの ( ② ) の増減を記録する補助簿である。
3. 貸借平均の原理にもとづき、総勘定元帳への転記が正しく行われたかどうかを確認したり、期末の決算手続を円滑に行うために作成する表を ( ③ ) という。
4. 減価償却費の記帳方法として、建物の減価償却費を減価償却費勘定の借方と ( ④ ) 勘定の貸方に記入する方法を直接法という。
5. 貸倒引当金は売掛金から差し引く形で貸借対照表に表示する。これは、貸倒引当金が売掛金勘定の ( ⑤ ) 勘定であるからである。

(語群)

評 租 貸 精	価 税 借 算	棚 公 対 表	卸 課 照 表	表 建 買 建	控 物 掛 物	除 統 資 商	仕 制 本 品	入 所 金 試 貸	金 預 算 倒 損
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------------	-----------------------

**第3問 (20点)**

江戸川商店の平成26年12月31日現在の資産・負債の状況と、同年中の収益・費用の金額は次のとおりであった。期末の貸借対照表(日付も記入すること)を作成しなさい。なお、会計期間は1月1日から12月31日までの1年間であり、期首(平成26年1月1日)の資本金の額は100,000円であった。

現 金	60,000円	商 品 売 買 益	241,000円	給 料	200,000円
当 座 預 金	30,000円	受 取 手 数 料	23,000円	交 通 費	22,000円
売 掛 金	50,000円	買 掛 金	30,000円	通 信 費	6,000円
商 品	70,000円	雑 費	1,000円	借 入 金	60,000円
水 道 光 熱 費	2,000円	貸 付 金	10,000円	消 耗 品 費	3,000円

**第4問 (6点)**

簿記では、帳簿に記入することによって企業の経済活動を記録している。帳簿を組み合わせることによって成り立つシステムのことを帳簿組織とよんでいる。帳簿は、大きく主要簿と補助簿に分類することができる。さらに、補助簿には、特定の取引の明細を発生順に記録する補助記入帳と、特定の勘定の明細を取引先などの口座別に記録する補助元帳がある。次に示した補助簿を「補助記入帳(A)」と「補助元帳(B)」に分類し、記号で答えなさい。ただし、すべて「A」または「B」と解答した場合には、全問不正解とする。

① 小口現金出納帳	② 当座預金出納帳	③ 受取手形記入帳
④ 商品有高帳	⑤ 買掛金元帳	⑥ 仕入帳

## 第5問 (22点)

次の【未処理事項】および【決算整理事項】について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、【答案用紙】第6問の精算表に記載されているものを使用すること。なお、会計期間は平成26年1月1日から平成26年12月31日までの1年間である。

### 【未処理事項】

1. 取引銀行に取立てを依頼していた得意先静岡商店振出しの為替手形50,000円がすでに決済され、当店の当座預金口座に入金されていたが、その連絡が決算日に届いていなかった。
2. 決算日の直前に売買目的有価証券のすべてを380,000円にて売却したが、その記帳がまだおこなわれていない。なお、売却代金は後日受け取ることになっている。

### 【決算整理事項】

1. 現金過不足について、原因不明のため適切な処理を行う。
2. 受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法により3%の貸倒れを見積もる。
3. 期末商品の単価は1個当たり@700円、数量は500個であった。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 次の要領にて有形固定資産の減価償却を行う。なお、建物の前期末の未償却残高は、600,000円である。

	減価償却方法	残存価額	耐用年数	前期末までの経過年数
建 物	定額法	取得原価の10%	30年	20年
備 品	定額法	ゼロ	6年	2年

5. 引出金について、適切な処理を行う。
6. 消耗品の棚卸を行ったところ、4,000円分が未使用であることが判明した。
7. 支払保険料は、10月1日に向こう1年分をまとめて支払ったものである。未経過分について繰り延べる。
8. 決算日までの地代90,000円が未払いになっている。
9. 定期預金は、8月7日に1年満期(利率年0.3%)で預け入れたものである。すでに経過した146日分の利息を見越し計上する。なお、利息は1年を365日とする日割計算によること。

## 第6問 (22点)

第5問の期末整理事項等の仕訳にもとづいて、精算表を完成しなさい。